



赤松玉女 Tamamè AKAMATSU
まなざしのものがたり
/ A Story of Looking

2021

5.8土—6.13日

尼崎市総合文化センター

美術ホール 5階(尼崎市昭和通2-7-16)

| 開館時間 | 10:00-17:00(入館は16:30まで)
ただし5月8日(土)は12:00開館

| 休館日 | 火曜日

| 入場料 | 一般600円 シニア・大学生500円 高校生以下無料
※障害者手帳等をお持ちの方は半額、その介助者の方は1名無料

| 主催 | 公益財団法人 尼崎市文化振興財団
| 後援 | 尼崎市、尼崎市教育委員会、兵庫県教育委員会
| 協力 | 京都市立芸術大学、ギャラリータフ

Kyoto City University of Arts - founded in 1980

京都ダウン症児を育てる親の会(トライアングル)



1 2



3



4

2020年度に尼崎市民芸術賞を受賞した尼崎市出身の画家、赤松玉女(1959 -)の約35年にわたる画業を紹介する展覧会を出身地において開催します。

赤松は創作活動を始めた80年代に、物語の一場面を思わせる不思議な光景の人物画を描いていました。その後カップルや家族など、身近な人々の日常の出来事から着想を得た画面になり、さらにファッション誌を飾るモデルのポートレートへと、描かれる人物像は様々に変化していきます。近年は顔に浮かぶ感情の複雑さや曖昧さをモチーフにしたドローイングを展開しています。描かれた人物たちはどこを見つめているのか、彼らは何を思っているのか。滲む色彩、重なり合う輪郭線、様々な画材を用いながら描かれた人物たちの視線は、描かれぬ世界への想像をかき立てます。赤松の絵画は一貫して人物像が中心ですが、人間の多面性を画材や技法を駆使する、変化に富む多彩さと豊かな表現が特徴です。

本展では、初期作品から最新作までを未発表の習作も含め紹介するとともに、80年代後半から90年代にかけて仲間と結成したアートユニット〈アルティジア〉の活動や、2000年代から取り組んでいる障害をもつ人々との創作活動の一端も取り上げ、赤松の歩みを総合的に紹介します。

第1章「ものがたりの中の肖像 / Narrative Portraits」

奇妙な祝祭空間に登場する人物たちの姿を描く

第2章「女性の肖像 / Female Portraits」

永遠とはかなさを見つめる女性たちの姿を描く

第3章「あいまいのものがたり / Ambiguous Stories」

あらゆる感情が移ろい溶けあう表情を描く

第4章「並行のものがたり / Parallel Stories」

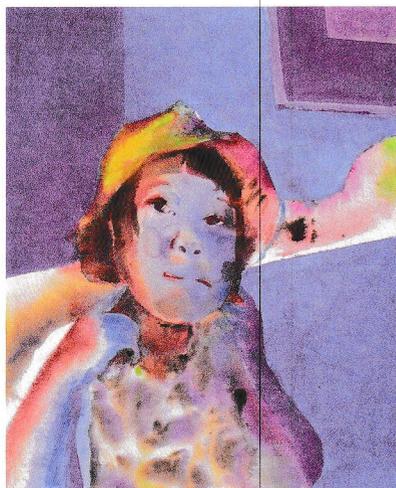
他者との共創が生み出す豊かな表現の広がり

赤松玉女 AKAMATSU Tamamé

1959年兵庫県尼崎市生まれ、京都市在住。1984年に京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。油彩、水彩、フレスコ技法等、画材や技法を組み合わせた絵画表現の可能性を研究。イタリアでの創作活動等を経て1993年度に母校の油画専攻教員に着任。2018年度から美術学部長、2019年度から学長を務める。



5



6



7

- 1《風神》 1987年 個人蔵
- 2《雷神》 1987年 個人蔵
- 3《天球儀》 1987年
- 4《夜更けのマリア》 1996年
- 5《ICONOVogue Figaro Japon 2007》
2007年 個人蔵
- 6《きいろいぼうし》 2012年 未発表
- 7《だからだいじょうぶ》 2017年

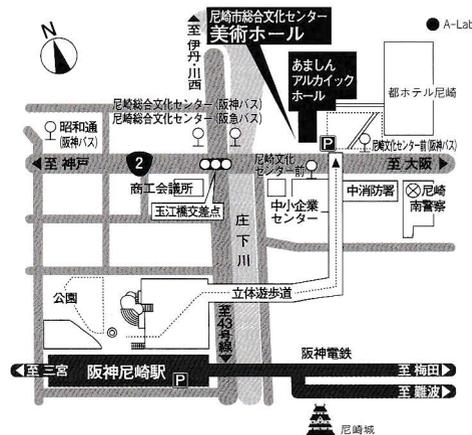
Photo : 1.2 Y.Morimura 3 T.Ishihara
4 Zokuydo Gallery 5 K.Tachi

ご来場の皆様へ

ご入館の際はマスクの着用と手指の消毒など、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、ご協力をお願いします。

【アクセス】

- 阪神尼崎駅より 立体遊歩道で徒歩約5分(国道2号線沿い)
- JR尼崎駅より 阪神バス(尼崎市内線) 23(駅南側4番のりば)「尼崎総合文化センター」下車すぐ
- 阪急塚口駅より 阪神バス(尼崎市内線) 13(駅南側1番のりば)「昭南通」下車徒歩約5分 阪急バス55・57(駅南側4番のりば)「尼崎総合文化センター」下車すぐ
- 有料駐車場あり(30分200円/1日最大1,200円・普通車)



【お問合せ】公益財団法人 尼崎市文化振興財団
〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通2丁目7-16
TEL.06(6487) 0806 (事業課美術担当)
www.archaic.or.jp